

## 序文



### 創部の志をふたたび

関西大学レスリング部

顧問 高堂 俊彌

関西大学商学部教授

昭和23年（1948）に結成されたわか関西大学レスリング部が、本年めでたく創部50周年を迎えたことはまことにご同慶の至りに存じます。ここに、文字通り「伝統あるレスリング部」としてのアイデンティティを得た思いがいたします。この栄誉は、ひとえに大学当局のスポーツ振興に示された永年にわたる支援に支えられたことはもちろんですが、歴代部員諸氏の真摯な努力と結束の賜物であり、とりわけOB会の現役部員に対する物心両面にわたる不断のサポートによるものに他なりません。ここに改めて関係各位に深甚の謝意を表するものであります。

いま半世紀にわたるその歩みをふり返るとき、わか瀕部の志が戦後の関大スポーツ再建の起爆剤として、まさにその復活を先導したという実績に、この上ない誇りを覚えております。それは敗戦後の心身ともに虚脱した状況のなかで、村田恒太郎初代監督の献身的な指導によって鍛えられた闘士たちが、いちはやく東の強豪、早大・慶応・明治・中央の諸大学に対して、西から敢然と挑戦して当時のスポーツ紙面を飾ったものであります。

われわれは、レスリング競技こそが古代オリンピックに源流をもつ、まさに「スポーツのなかのスポーツ」としての歴史と風格をもつものと自負しております。それにもかかわらず他の球技種目のような大衆性を得ていないために、つねに限られた底辺のなかからの、いわば素人軍団を組織しながら、一貫した「少数を精鋭化する」とのモットーのもとに精進、努力を重ねてきたのであります。おもえば、市口政光氏（昭和37年文学部卒・現在東海大学体育学部教授）を代表にして、その頂点が東京オリンピックでのゴールドメダルに結晶したものでありましょう。

いまここに、ふたたび創部の精神にたち返って、半世紀にわたる伝統を確認し、これを継承すべき責任と使命を痛感するものであります。「創部50周年記念式典」を挙げるこの機会に、重ねてわかレスリング部に対する各層、各位のさらなるご支援とご鞭撻を懇願申し上げますとともに、併せて、わか部の発展のために貢献された松井清初代OB会長をはじめとする物故者諸先輩のご冥福を衷心より祈念申し上げます。